

## 地域に飛び出す市民国際プラザ!

『市民国際プラザ』では、国際協力や多文化共生に関する自治体、地域国際化協会、NGO/NPO等による連携相談を行っています。更に、先進的な活動を実際に取材したり、情報収集を行い、本ダイジェストでご紹介しています。

### ○「サステナブル近江八幡2017」～持続可能な開発目標 (SDGs) 達成に向けた取り組み～

日時：2018年2月22日 場所：京都府近江八幡市役所

近江八幡市ではSDGsの「誰ひとり取り残さない」という包摂的理念が、住民の福祉の増進を図ることを目的とする自治体にとって共感できるものであり、また、総合戦略に掲げる将来都市像について、市民や事業者をはじめ、世界中の方々と共有し、結びつける共通言語－「新しいものさし」として、SDGsを位置付けました。

2017年2月に市としてSDGs実現に向けた取り組みを進めることを決定し、4月には市長を本部長に「**近江八幡市SDGs推進本部**」を設置しました。

取り組みにあたっては他の自治体での先行事例がなかったため手探り状態となったそうですが、まずは各部署ごとにSDGsを解釈し、施策を棚卸しすることから始め、それが結果として各自が考えるきっかけや理解に繋がったそうです。

これまでの成果としては、下記の3点が挙げられます。

- ① **推進本部の設置等、庁内の取り組み体制を整えたこと**
- ② **施策を棚卸しし、政策集「サステナブル近江八幡2017」ができたこと**
- ③ **庁内での勉強会を実施し、SDGsへの理解が深まったこと**

2017年8月には「SDGsの推進と広域連携」をテーマに近江八幡市と夫婦都市、姉妹都市、災害応援協定を締結している市町との意見交換会を行う「**地域創造ネットワーク会議**」を開催しました。

11市町村から140名が参加し、公聴会形式で市民も参加できました。1回目を開催した結果としてはSDGsの認知度がまだまだ低いものの、特に漁業や水環境関係では関心が高まった手ごたえがあり、取組が進めば大きなインパクトがあると考えているそうです。

また、一番印象深かった言葉として、「**SDGsに取組むため新たに事業を起こすのではなく、今までの取組みそのものの延長線上にSDGsがある**」とのコメントがありました。

現在、第一次総合計画(10年間)を策定中で、最終年が2030年とSDGsの目標達成年と重なることもあり総合計画にSDGsの観点の色濃く取り入れていく予定とのこと。今後の近江八幡市のSDGsの取り組みから目が離せません!

※政策集「サステナブル近江八幡2017」

[http://www.city.omihachiman.shiga.jp/contents\\_detail.php?frmId=12878](http://www.city.omihachiman.shiga.jp/contents_detail.php?frmId=12878)



### ○ワークショップ「いのちの持ち物けんさ」～難民を知り、自らをみつめなおし、世界の一員として自分にできることを考える～

日時：2018年2月6日 場所：国連UNHCR協会（東京都渋谷区）



国連UNHCR協会は国連難民高等弁務官事務所（UNHCR）の活動を支える日本の公式支援窓口です。国連UNHCR協会では、難民について「自分ごと」として考えるためのワークショップを開発し、教育機関等への普及を行っています。

『いのちの持ち物けんさ』は、2013年12月の「大学生×難民支援 学生アイデアコンペ」(国連UNHCR協会と学生団体SOAR主催)にて、最優秀アイデア賞を受賞した難民支援を身近にするためのワークショップです。＜自分への気付き＞を元にして、難民の人たちの心の痛みに寄り添うために「**自分にできることは何か**」を考えるきっかけをつくること、また、難民について正しく知ってもらうことを目的としています。『あるものないものワークショップ』と共に、『難民についての授業の手引き』にまとめられ、主に協会ウェブサイトや教職員対象の『難民についての教材活用セミナー』をとおして、伝えられています。

このセミナーは、社会科などの教科指導や総合的な学習の時間、人権教育、キャリア教育における教材の活用、グローバル人材の育成やアクティブラーニングへの貢献を目的として行われています。



難民問題やUNHCR（国連難民高等弁務官事務所）に関する基礎知識を習得するだけでなく、実際に『いのちの持ち物けんさ』や『あるものないものワークショップ』を体験します。セミナーについての様子はこちらをご覧ください。

<https://www.japanforunhcr.org/archives/14504/>

## ○外国語でなくてもいいんだ！

### 「やさしい日本語」で、外国人が暮らしやすい地域づくりと、地域人材の活性化

日時：2018年2月21日 場所：「やさしい日本語」有志の会（京都府京都市）

「やさしい日本語」有志の会は、2008年に「京都にほんごRings」で行われた防災研修会をきっかけに**災害弱者となりやすい外国人のための防災教育を行うことを目的に発足**しました。「やさしい日本語」を知ってもらうためのワークショップをはじめ、「やさしい日本語」勉強会、外国籍住民のための防災出前講座に取り組んでいます。

ワークショップは、「やさしい日本語」の**情報提供**と、**防災の2本立て**で行っています。初めに、地域の地図を使ったワークショップで「どこで川が氾濫した、山崩れが発生した」などを確認した後に、防災グッズワークショップを行います。防災グッズの説明とどこで購入できるのか地図を確認することで、まさかのと時にとるべき行動が身につくようです。



勉強会では「やさしい日本語」のコンセプトを理解してもらい、地域で実践してもらうことを目標にしています。「ベトナム人が増えているからベトナム語のできる人を連れてくる」のではなく、**地域の人々が「やさしい日本語」でコミュニケーションが図れるようになれば、結果として地域の人材の活性化にもつながります。**

防災だけでなく、最近ではユニバーサルデザインとしても活用されている「やさしい日本語」に、ますます注目が集まりそうです！

出展：「やさしい日本語」有志の会HP

## ○東京都新宿区における、区民と外国人住民が共に参画する取り組み

日時：2018年2月16日 場所：しんじゅく多文化共生プラザ

新宿区では、外国人住民との生活に関しアンケートを実施した結果、外国人に対する不安の高まりがある一方で、外国人住民を理解したい、交流が必要との声があり、そうした不安の解消や、地域での交流を目指し、2005年9月「しんじゅく多文化共生プラザ」が設立されました。



特徴的な事業として、地域に暮らす「外国人住民のエンパワーメント」と、「ネットワークづくり」に向け、多文化共生に関する情報交換の場として「新宿区多文化共生連絡会」を設置し、月1回の会議とメルマガ配信を行っています。連絡会には110団体が参加している他、個人でも参加可能で、外国人、支援団体、町会、商店会など様々なメンバーが参加し**地域の問題を草の根的に解決する場として重要な機能を担う**に至っているそうです。

2014年からは新宿区長の付属機関として「新宿多文化共生まちづくり会議」が設置されました。日本人住民16名、外国人住民16名の32名により「くらし部会」と「住宅部会」の2つの部会で構成され、外国人が住宅を借り難い状況や、大家さんや不動産業者の困りごとやゴミの捨て方、自転車の乗り方、マナーなどここで**議論された課題は施策に反映される仕組み**になっています。

プラザの存在や多言語情報が中々届きにくい外国人住民に対しては、例えばネパール人向け防災訓練を企画し、その際には外国人住民に1件1件手渡しをするなど、直接の働きかけも行い、多文化共生推進に尽力されています。



～ 市民国際プラザを広く皆様に知っていただくために～

市民国際プラザのFacebookに「いいね！」をお願いします！



(一財)自治体国際化協会 市民国際プラザ

URL <http://www.plaza-clair.jp> E-mail [international\\_cooperation@plaza-clair.jp](mailto:international_cooperation@plaza-clair.jp)